

## 各地で農業祭・農協祭にぎわう

地区で特色あるイベントを開催

JAは10月から3月にかけて、管内各地区で農業祭・農協祭を開いています。10月、11月、12月には各地区で特色ある祭りをを行い、大勢の来場者でにぎわいました。

農産物品評会・即売会、ステージイベントでは餅まきや食育クイズなど、各地区多彩な催しを企画。その他、イチゴやミカン、茶、米、サツマイモなど特産品の販売や青壮年部・女性部・生産組織・JA職員による模擬店など、来場者は地場農産物の魅力に触れ、生産者・職員との交流を深めました。



来場者に人気の農産物販売(なんすん地区)



ミカンの1kg当てチャレンジ(伊豆の国地区)



女性部による豚汁サービス(御殿場地区)



食育クイズ(富士宮地区)

## 地域農業の応援団・ファン作りへ

「マックスバリュ」21店舗に広報誌を設置

JAは、奇数月に発行するタブロイド版広報誌の設置を東部地区のスーパー「マックスバリュ東海」21店舗で新たに始めました。

マックスバリュ東海は地域密着型の店舗運営で、「じもの」ブースもあることから、特販課と取引がある店舗の協力により設置に至りました。広報誌を通じて地場農産物のおいしさを広め、消費者の買う・食べるなどのアクションにつなげていきます。



長泉中土狩店「じもの」コーナーに設置された広報誌

## 意欲ある生産組織を支援

令和8年度あぐりチャレンジ事業で12件採択

JAは11月18日、令和8年度あぐりチャレンジ事業審査会をサテライト本店で開きました。

生産部会などから13件の申請があり、「チャレンジ性・実現性・将来性」「協同性」「方向性・波及効果」など5項目について総合的に審査。イチゴや花卉の高温対策など12件1,258万円を採択しました。今後は営農アドバイザーが伴走型支援を続け、生産組織とともに農業生産の拡大を目指します。



営農経済委員長や営農担当常務など役職員が審査

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

JAふじ伊豆はSDGs「1～17の目標」につながる取り組みを行っています。

各所に記載のマークはSDGs目標アイコンです。

## 管内生産者・児童らが多数受賞

全国や県の品評会、コンクールなどで最高位・上位入賞

8月から12月、ワサビや米、イチゴ、茶などの全国・県品評会、畜産共進会などが行われました。各賞の上位入賞者は次の皆さまです。

### ■ 第40回全国わさび品評会

特賞・農林水産大臣賞：勝又敬一郎(御殿場)

特賞・全国農業協同組合連合会理事長賞：塩谷修(伊豆の国)

特賞・全国わさび生産者協議会長賞：山口長之(伊豆の国)

優秀賞：高村範利(伊豆の国)、勝又京治(御殿場)、鈴木敏彦(伊豆の国)、藤井幸光(伊豆太陽)、下山雄大(伊豆の国)、土屋一幸(伊豆太陽)、稲葉泰助(伊豆太陽)、西尾隆夫(伊豆の国)

### ■ 第22回お米日本一コンテストinしずおか

金賞：静岡県知事賞：ヤンチャFarm(御殿場)

金賞：杉山浩也(御殿場)

### ■ 第27回米・食味分析鑑定コンクール国際大会inつくばみらい都道府県部門

金賞：瀬戸信吾(御殿場)

### ■ 第4回全日本お米グランプリin北広島町

銀賞：勝又友之(御殿場)

### ■ 第一回節水栽培米グランプリ

優秀賞：かつまたファーム株式会社(御殿場)

### ■ 第15回大阪府民のいっちゃんうまい米コンテスト

最優秀賞：勝又友之(御殿場)

優良賞：遠藤博雄(御殿場)

### ■ 第79回全国茶品評会

3等：小林園 小林裕直(富士)、山二園 後藤裕揮(なんすん)、木村園 木村和彦(富士)

### ■ 第29回全国手もみ製茶技術競技大会

最優秀賞：静岡県茶手揉保存会富士支部 勝又匠、勝又正登、荻野和也(富士)

### ■ 第36回静岡県いちご果実品評会

金賞3席：静岡県知事賞：神田豊通(伊豆の国)

金賞5席：高田祐樹(伊豆の国)

銀賞：植松稔(伊豆の国)、山口信幸(伊豆の国)、永倉玄太(伊豆の国)

### ■ 第99回静岡県畜産共進会・乳牛の部

名誉賞・農林水産大臣賞：高橋実徳(伊豆の国)

最優秀賞：岩城正盛(三島函南)、長田博行(御殿場)、高橋実徳(伊豆の国)

### ■ 第99回静岡県畜産共進会・肉牛の部

優秀賞：前島昌夫(三島函南)、(株)富士SUNRISE牧場(なんすん)、(株)やまだいふあーむ(なんすん)、加藤徳夫(なんすん)、加藤文子(三島函南)

### ■ 第33回静岡県キウイフルーツ果実品評会

銀賞：萩原元治(あいら伊豆)

敬称略、( )かっこ内は地区名

### ■ 令和7年度JA共済 小・中学生書道・交通安全ポスターコンクール

<全国>

書道の部

文部科学大臣賞：飯田愛菜花(富士宮市立東小学校4年)

家の光協会会長賞・ちやぐりん賞：

飯田将仁(富士宮市立東小学校2年)

全国共済農業協同組合連合会会長賞・銅賞：

源平統子(富士市立田子浦小学校3年)

交通安全ポスターの部

全国共済農業協同組合連合会会長賞・佳作：

森田堇(三島市立南中学校3年)

<静岡県>

書道の部

金賞：飯田将仁(富士宮市立東小学校2年)、源平統子(富士市立田子浦小学校3年)、飯田愛菜花(富士宮市立東小学校4年)、高橋璃子(沼津市立門池中学校3年)

交通安全ポスターの部

金賞：林瑞歩(御殿場市立高根小学校2年)、市川紗良(富士市立鷹岡小学校4年)、樋口泰雅(三島市立中郷中学校1年)、井出百音(学校法人静岡理工科大学星陵中学校2年)、森田堇(三島市立南中学校3年)

優秀学校賞：三島市立南中学校、富士市立鷹岡小学校



金賞・県知事賞のヤンチャFarmの皆さま(お米日本一コンテスト)



名誉賞・農林水産大臣賞の高橋実徳さん(右)(県畜産共進会・乳牛の部)

小・中学生書道・交通安全ポスターコンクールの入賞作品はこちらから(静岡県のJAホームページへ)



ふじ伊豆  
Fuji Izu Topics  
トピックス





## 御殿場のワサビ3年連続最高位

第40回全国わさび品評会で受賞

第40回全国わさび品評会で、御殿場山葵組合の勝又敬一郎さんが最高位の特賞・農林水産大臣賞を、同組合の勝又京治さんが優秀賞・東京促成青果株式会社賞を受賞しました。

これを受け11月19日に梶穀組合長に、12月1日に勝又正美御殿場市長に受賞を報告しました。勝又市長は「御殿場地区のワサビが日本一だと証明されたことは大変光栄」と二人をたたえました。



勝又京治さん(左)・敬一郎さん(右)が勝又市長(中央)に報告



## 資材作製し青壮年部事業をPR

SDGs推進と食品ロス削減に貢献

青壮年部富士宮地区本部は「SDGsフードサイクルコミュニティ活動」の周知と活性化を目的に、新たにのぼり旗と横断幕を作製しました。

同事業では食品ロス削減に向け、ファーマーズ出荷者などから規格外野菜の提供を受け、調理実習などで野菜を必要とする市内小中学校に寄贈。荻真教部長は「活動をPRして集荷につなげ、SDGsの推進に貢献していきたい」と話しました。



野菜の寄贈式で新資材の横断幕を掲げる部員



## 一年の豊穡に感謝

三嶋大社の新嘗祭に野菜宝船を奉納

青壮年部三島函南地区本部と三島商工会議所青年部は11月23日、三嶋大社で行われた新嘗祭に野菜宝船を奉納しました。

部員が栽培した野菜を持ち寄り、全長5m、重さ3トン越えの野菜宝船を制作。前日の22日には白滝公園で禊祓を行い、三嶋大社まで奉納野菜をみこして運びました。祭典終了後には宝分けを行い、伝統行事と地元野菜をPRしました。



丁寧に野菜を飾りつける青壮年部員



## 品質向上・地産地消の推進へ

大豆の選別機を導入

中伊豆大豆生産組合はJAのあぐりチャレンジ事業の助成金を活用し、12月に新たな大豆の選別機を導入しました。従来機に比べ選別機能に優れ、品質向上や作業の効率・省力化が図れます。

同組合は、地域農業の促進と地元流通を事業の基軸とし、伊豆市の遊休農地活用にも貢献しています。同機の導入で収益性の向上を図り、大豆の生産量維持と地産地消活動の継続につなげます。



新たな選別機で作業をする生産者ら



## 高品質出荷へ意思統一

イチゴ生産者大会開く

富士地区苺部会は12月2日、富士営農経済センターで生産者大会を開き、部会員や市場関係者、JA、経済連職員などが参加しました。

今期は12月に本格出荷を迎え、生産・販売の情勢報告や目ぞろえ会、講習会を実施。出荷基準の統一と栽培技術の向上へ意思統一を図りました。宮崎和洋部会長は「より良いイチゴの出荷に向けて、部会一丸となって頑張ろう」と呼びかけました。



目ぞろえ会では着色基準などを確認



## 農業振興に向け行政と意見交換

アグリサミット開催

JAと沼津市・裾野市・長泉町・清水町などで構成する農業振興協議会は、沼津市でアグリサミットを開きました。農業振興と農業経営の安定・発展に向け、新規就農支援の取り組みと展望について活発な意見を交わしました。

梶穀組合長は「持続的な地域農業の発展には新規就農者の育成支援は極めて重要であり、行政とともにできることに取り組んでいく」と話しました。



地域農業の発展に向け意見交換する首長ら



## 畑ワサビ収量増加へ

前作の課題踏まえ栽培講習会

あいり伊豆蔬菜部会は、令和5年から伊東市で畑ワサビの栽培に取り組んでいます。12月4日には栽培講習会を開き、ワサビのトップ営農指導員が栽培計画を説明した他、前作で課題となったアブラムシの定期的な防除の徹底を呼びかけました。

その後、部会員のほ場に移動し、11月に定植した苗の生育状況を確認。今期は前作よりも1カ月以上早い定植で、収量の増加を見込んでいます。



日吉新トップ営農指導員(左)から説明を受ける部会員



## 生産振興へ栽培品種検討

カーネーションの試作品種を調査

東伊豆町花卉園芸組合は、カーネーションの生産振興に向けて栽培品種の検討を進めています。

12月には、同組合役員やJA、県などの関係者が同町の5カ所のハウスを巡回し、試作品種の生育を調査。品種ごとの生育や1株当たりの収穫本数などを確認しました。1月には同結果と実際に収穫した切り花の出来を見比べて参考にし、次期作の品種を選抜しました。



生産者やJA職員らが試作の花の生育状況を調査